

## ブドウべと病の初期発病と気象条件

野口保弘 ・ \*野田政春 (福岡県農業総合試験場 ・ \*福岡県庁農政課)

Yasuhiro NOGUCHI and Masaharu NODA : Relationship between Factors of Climate and Disease Development of Grape Vine Downy Mildew

露地栽培の、罹病性品種におけるブドウべと病の初期発病と気象条件 (降水量と湿度) との関係について、発生予察的な立場から、マクロ的視野で検討した結果の概要を報告する。

### 1. 試験方法

1) 柵栽培の巨峰の若木を供し、薬剤無散布とし、1983年～'85年にかけて初発病時期を調査した。

2) 場内設置の精密気象観測装置を用い、1983年～'85年にかけて、毎日の降水量と毎日1時間ごとの湿度を調査し、さらにこれを半月別にまとめ、初発病時期との関係を検討した。

### 2. 調査結果および考察

1) 初発病時期は、年次により、気象条件により差がみられた。すなわち、1983年は6月1～2半月に、'84年は7月2半月に、さらに'85年は6月3半月に各々初発病を認めた。

2) 1983年～'85年の各年次ごとの、初発病前の降水量、および湿度について調査した結果、1983年は5月4半月に累計降水量108.5ミリ、半月平均湿度79%、同様に5半月は降水量2.5ミリ、湿度82%、6半月は10.0ミリ、75%となっており、九農研第46号 (1984年) に発表した、2次伝染を想定した感染発病条件 (日平均湿度85%以上で感染し、潜伏期間2～3半月) から考察すると、5月4半月ごろ (5月16日の日平均湿度95%) に感染したものと推定された。同様に'84年は6月4半月が84ミリ、90%、5半月が73.5ミリ、96%、6半月が79.0ミリ、92%となっており、6月4～6半月に感染したも

のと推定され、さらに'85年は5月6半月が64.5ミリ、88%、6月1半月が1.5ミリ、86%、2半月が47.5ミリ、81%となっており、5月5～6半月に感染したものと推定された。

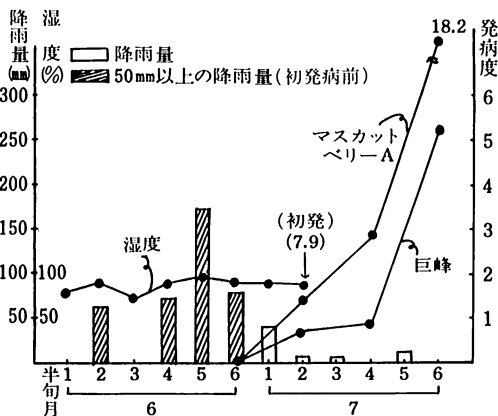
3) 以上の結果から、半月累計降水量が50ミリ以上半月平均湿度約80%以上 (毎日の1時間単位の湿度で85～90%以上の状態が数時間続く) の環境になると感染に好適な条件に達するものと予想され、その後数半月を経過して初発病に至るものと推定した。

第1表 ブドウべと病の感染期の湿度の時間的推移(1984)

項目 月日 時間	湿度 (%)									
	6.16	6.17	6.18	6.19	6.20	6.21	6.22	6.23	6.24	6.25
0	99	99	99	99	99	99	99	88	99	99
2	70	99	99	99	99	99	99	99	99	99
4	79	98	99	93	99	99	99	99	99	99
6	94	99	99	99	99	99	99	99	99	99
8	95	95	84	99	91	94	99	99	99	99
10	93	93	75	98	79	79	99	99	99	99
12	97	79	56	88	77	77	99	99	97	99
14	98	72	55	96	73	66	99	94	99	91
16	94	73	62	99	77	72	99	83	99	97
18	99	76	86	97	87	83	99	93	99	99
20	95	91	94	99	94	91	99	98	99	95
22	99	99	99	98	98	99	99	99	99	99

### 引用文献

野口保弘：ブドウのハウス栽培におけるべと病の感染発病に及ぼす湿度 九州農業研究, 46, 119, 1985.



第1図 ブドウべと病の初期発病と降水量湿度との関係 (1984)